# ラボの世界 THE WORLD OF LABO

## TOPIC

2022 国際交流 Project スタート!

P1

- ol 2022 国際交流未来 Project
- ○2 第34期ラボ高校留学
- 04 ラボで来る子たちは sweet! アメリカのホストファミリーにインタビュ
- 05 ラボ・ウインターキャンプ国際交流プログラム
- 07 言語学の世界へようこそ! ことばはどうやって覚えたの? -
- 08 Go Ahead! 知る楽しさ、伝わるよろこび-



# みんなの願いを 大きく育てて

## 2022 国際交流

未来 Project





世界的な感染症拡大のため 2022 年のラボ国際交 流ホームステイプログラムに参加できなかった人 たちにむけて行なわれた「2022 ラボ国際交流 未来 Project | のキックオフ会。「バーチャル・ラボランド | で参加者のアバターが動きまわって、いろいろな出会 いがありました。

プログラム内容は、国際交流〇×ゲーム、元ラボ・ インターンからのメッセージ,バーチャルのロッジに 入って自己紹介、などでした。

では、参加者の感想をご紹介しましょう。

国際交流~行〈夢 はかなれなかったけ ど、新しい出会いも あってこれからが楽 しみになった。

全国にこんなに仲間 がいて刺激になった。

国際交流へ早く行 きたくなった!

ラボでインターンしたこと がある人の話を聞けたのが いちばん印象的だった。

すごく面白かった!



ロッジに入って顔を 出した時,全然知らない 人たちに自分を紹介でき て少し自信がついた。

インターンの話に はげまされた。

とくにむずかしくもなくて 楽しめたので本番もやりた い! といったら,横にい た、参加できなかった子 が「本番は申しこむ!」 といった。

バーチャル・ラボランドにも、ラボ ランドと同じ所に木が生えていて、本物 のラボランドとリンクした

> アバターを動かす ことが楽しかった。

# 第34期ラボ高校留学 and Full of Joy!

いま、第34期のラボ高校留学生がアメリカ、カナダで元気にがんばっています。 アメリカの4H, ASPECT, そしてカナダからひとりずつ, 写真いっぱいの報告です。

#### **Nana Yamauchi** Colorado, U.S.A. (福岡県・山内則子パーティ)

私にとって 2017 年の 1 か月ホームステイは、今 回の留学に踏みきるひとつの大きなきっかけでし た。ホームステイや留学というのは人生のなかで「寄 り道」かもしれません。舗装されていない道を歩く のはすごく疲れるしたいへんですが、そこで見た景 色, 感じたこと(ネガティブな感情もふくめて)は

自分だけの思い出になります。

今年国際交流に参加するみなさん, 自分が楽し んだ分だけ周りの人もいっしょに笑顔になってく れます! 期待と不安と勇気をもって行動してい るみなさんのことを心から応援しています。



ホームルーム中にクラスメイトといっしょに



友だちと部活の時間にフェイスペイントをして遊びました









ほかの留学生の友だちと

カンザス州へホストファ ミリーの友人を訪ね、 ボート遊びをしました

ホストファミリーが七面鳥 をたくさん飼っています



#### **Nao Watari** Brithish Columbia, Canada (島根県・太田清美パーティ)

これからラボ国際交流に参加するみなさんへ〜 ホストファミリーと笑顔で過ごし、すばらしい経験ができることを願っています。



留学生のみんなで Lake Louise 旅行で



フランス語の教室で Happy Halloween



Drumheller の丘 ホストマザーといっしょに



みんなでスキー!



これからよろしくね!



ハウスシスターと 「いい汗かいたね!」

## **Hinata Kanamaru** Oregon, U.S.A. (東京都・石川久美パーティ)

海での人生では じめての釣りが 留学4日目でし た! 大きなサ ケを釣って, カ ニをとって, 野 生のアシカを見 て……。







教会のキャンプで。聖書の なかのキーワードを探すレ クリエーションで魚を見つ けられなかった私たちは魚 の口を再現しました。



ドキドキの学校初日。不安もあったけど、ずっとあこがれだった高校留学生活がやっと始まる! っていうワクワクでいっぱいでした。



アメリカの高校生 活の一大行事で あるホームカミン グデー。ありがた いことに選んで いことに選んで もらえました。ド レスを着てティ ラを付けて、夢 たいで幸せで楽し い時間でした。

クリスマスの前 に, 教会で生誕 劇をしました。

## アメリカのホストファミリーにインタビュー

# ラボで来る子たちは Sweet!



ラボ国際交流の受入れを6回もしてくれたアメリカ・メリーランド州のバトラーさん一家。長男は数学の先生に、長女は看護士に、末娘は大学3年生になられました。 Larry さん Rhonda さんご夫妻にラボっ子受入れ体験についてインタビューをしました。

#### Larry and Rhonda Butler Maryland, U.S.A.

#### ロンダさん (Rhonda)

※幼児~小学低学年の子たちを教える美術の先生。

#### Sweet and innocent...

「うちに来たラボっ子たちは,ほんとうにいい子たちばかりで,sweet で innocent でした。長女の Erika はシャイで,ときどきふてくされてしまう子だったけど,最初に受入れしたラボっ子がいつも Erika にやさしくしてくれて,尊重してくれて,Erika は Happy な子になった。この経験があったからその後,5回も受入れをすることになったんです」



#### ラリーさん (Larry)

※高校の副校長先生。若い頃は体育の先生でした。

#### Respectful kids...

「日本の子は、おとなをリスペクトする態度がいいです。もちろんアメリカの子だってするけれど、日本の子はとくにそう感じる。アメリカの子が学ぶべきところだと思いますよ」



最初に受入れをしたラボっ子と。近 くの浜辺に行き、サメの歯を見つけ た



6人目のラボっ子と末娘

ロンダさん主催の Summer art camp での子どもたちの作品





ロンダさんの作品(材料はすべて身近なもの)





## ラボ・ウインターキャンプ る 国際交流プログラム

2021 年 12 月末~2022 年 1 月初旬にかけて, ラボ・ウインターキャンプ「くろひめ」「かんなべ」「なかつえ」が開催されました。 3 泊 4 日で行なわれるウインターキャンプでは「国際交流」について考えるプログラムを組んでいます。とくに今回のウインターキャンプでは、ラボ国際交流が中止になったことにより参加できなかった子たちに対する思いや激励がつまった企画がたくさんありました。企画・運営したのは、ラボ・パーティの大学生会員たち。彼らが発案した企画をキャンプ地ごとに紹介します。

#### くろひめ 首都圏大学生コーチ会議代表 佐藤薫(大3)

私が中学生のときにラボ国際交流に参加し、いまでも連絡を取りあうほどのもうひとつの家族を得ることができました。外国の人と関わることを経験することで、人と人とのコミュニケーションの基礎を学ぶことができました。コロナ禍で、ラボっ子が外国の人と関わる機会が減っているなか、国際交流経験者、未経験者関係なく、国際交流そのものに興味をもってほしいという思いから、以下のようなプログラムを企画しました。一部紹介します。

#### ①ロッジ別国際交流プログラム

キャンプ2日目のロッジ活動の時間に、英語をつかった楽しいゲームを紹介しました。参加者に英語でのリアクションを促すために、右のようなものを用意しました。ほかには、ロッジにいる既国際交流参加者が未参加者に経験談を語る時間を設定しました。





#### ②「STEP 模造紙」

各ロッジに「STEP」と書かれた模造紙を配布し、それぞれの文字のなかに達成できたことや、できた人のあだ名を書いていくプログラムです。

- ・Smile…笑顔がすてきな子のエピソードとあだ名
- ・Try…挑戦したこととあだ名
- Thank you… "Thank you" がいえたら感謝したこととあだ名
- ・Eye contact…アイコンタクトした相手と自分のあだ名
- ・Please…"please"をつかったらエピソードとあだ名

#### かんなべ 関西支部大学生コーチ会議 小澤琴弓 (大3)

2020年と2021年に、コロナウイルスの影響で1か月ホームステイをふくめ ラボの国際交流プログラムが中止になってしまいました。いままでは「あって あたりまえ」だった国際交流が「あるかわからないもの」になり、人によっては「ど うせ中止になってしまう」という思いを抱くようになりました。そんなマイナスな感情をもったラボっ子をふくんだすべてのラボっ子に、国際交流に対して 前向きな気持ちをもってほしいと感じました。マイナスからゼロに、ゼロから プラスになるような国際交流プログラムにしたいと思いました。「一歩踏み出す 勇気をもつ」ということばを掲げ、関西支部大学生コーチ会議は参加者全員が 前向きになるようなプログラムを企画をしました。 3つ紹介します。







#### ①グループ別プログラム

共通ライブラリー『ジョン万次郎物語』をもとにした企画をつくり、未参加者・既参加者別プログラムにむけ、仲間と協力しながら次のプログラムに進めるステップをふめるような企画。

#### ②未参加者・既参加者合同プログラム

グループ別プログラムをふまえ、新たな国際交流のための一歩になるような企画。

#### ③参加者別プログラム

合同プログラムで話したことを生かし、それぞれの経験から一歩をふみだす勇気をもつための企画。

#### なかつえ 九州支部カレッジメイト会議

私たちは、「ラボ国際交流プログラムで海外での体験ができなくなってしまったラボっ子に国際交流にふれてほしい」という願いから、「きっかけ」をテーマに『出張カレッジメイト』を昨年 10 月に、「準備」をテーマに『国際交流ひろば』を昨年 11 月に、そして「交流」をテーマにウインターキャンプで国際交流プログラムを実施しました。

ウインターキャンプでは、以下の3つのプログラムを行ないました。参加してくれた小学5年生~中学生ラボっ子の楽しそうな姿を見ることができ、カレッジメイトも元気をもらうことができました。





#### **1** [Non-Japanese Time]

「お土産を買いたい」などの状況を英語で説明する練習。

#### ②「その場で乗り切れ! アドリブチャレンジ」

ケーススタディをグループに分かれて身体で表現。

#### ③「○○の木」

国際交流に行って体験してみたいことやこれからがんばりたいことを、付箋に書いて貼り、グループごとの「木」を作成。

2022 SPRING Vol.296 **ラボ**b世界

# 東京言語研究所リポート 言語学の世界へようこそ!

# ことばはどうだって 覚えたの?



#### 佐野哲也(さの・てつや)

明治学院大学文学部教授(専門言語学)。1995 年カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校大学院博士課程言語学専攻修了,Ph.D. in Linguistics。主要著作として『Roots in Language Acquisition』(ひつじ書房, 2002)

#### 子どもの言語獲得における「文法についての修正」について

#### 子どもはどうやって文法の規則を覚える?

人間の子どもは通常,第一言語を自然に獲得することができます。人間の自然言語には文法についての規則があります。これを人間の子どもはどうやって獲得するのでしょうか。中学生くらいからの第二言語獲得の場合,文法についての規則は,教師から説明を受けて,例題などを通して習い覚えるというようなかたちで身につきます。それに対して子どもの場合はどうでしょうか。おとなから説明を受けて習い覚えるということが,子どもの言語獲得の場合どのくらいの役割を果たすのでしょうか。

#### "Nobody don't like me."

この問いについて、研究者の観察を紹介します。まずひとつ目は、McNeill(1966, MIT Press)の以下の子どもと母親の対話記録です。

子ども: Nobody don't like me.

母: No, say "nobody likes me."

子ども: Nobody don't like me.

~このような対話が8回くり返される~ 母: No, now listen carefully, say "nobody likes me."

子ども: Oh! Nobody don't likes me.

英語では、「みんなぼくのことが好きじゃない」という意味を表すのに、Nobody don't like me. という言い方は文法的に不適格です。好きじゃないという否定の意味が、nobody という単語に入っているので、don't というもう一つの否定の単語をくり返し使うことは英語では文法的に不適格となっています。「みんなぼくのことが好きじゃない」という意味は、英語では、正しくは Nobody likes me. という文で表わされます。この対話で、母親はこのことをくり返して教えこもうとしていますが、子どもは修正を無視して、同じ不適格な言い方をくり返しています。この例で、おとなが文法的修正を試みても、子どもにとってそれを受け入れることはかんたんではないことがわかります。

#### おとうちゃん, まどあいて!

同じような例を日本語でも見てみましょう。以下は、『岩波講座 認知科学〈7〉言語』(大津由紀雄ほか/1995,岩波書店)に収録されている、子どもと父親の対話記録です。

子ども: おとうちゃん, まどあいて。

父: まどあけて, だろ。子ども: うん, まどあいてよ。父: まどあけて, だよ。

子ども: いいから, まどあいてよ, おとうちゃん。

日本語の「あける」と「あく」は、英語ではどちらも "open" で表されますが、日本語では、いわゆる他動詞の場合は、「あける」、自動詞の場合は、「あく」とかたちが変わります。この例で、子どもは、他動詞の「あけて」をつかうべきところに、自動詞の「あいて」をつかってしまっています。父親は、それを正しいかたちに修正しようと試みていますが、子どもは、その修正を受け入れることができず、同じかたちをくり返し使っています。

#### 子どもの言語獲得にはいまだになぞが……

このような例で、おとなが文法的修正を試みても、子どもに とってそれを受け入れることはかんたんではないことがわかり ます。

そうすると、子どもは、おとなからの文法的修正を利用していないはずという可能性が高くなりますが、それにもかかわらず、子どもが第一言語の文法規則を自然に獲得できるのはなぜなのか、という疑問がうまれてきます。この大きな疑問は、子どもの言語獲得の研究のひとつの重要なテーマです。今回あげたような例について、子どもがおとなからの文法的修正を利用していない以上、なんらかの生まれつきの能力が子どもの言語獲得を助けているはずだということが考えられていますが、その生まれつきの能力がどのようなものなのかはまだまだわかっていません。このふしぎな謎の答えを出すことは、研究者たちの大きな目標となっています。

7

# **G**2 No.173

## 知る楽しさ、伝わるよろこび



**ロバ** 空間プラン 北米交流ではアメリカのオレゴ ン州に滞在。庭にはあこがれの大 きなトランポリン! 同い年のホ ストとは初日からトランポリン遊

びであっという間に距離が縮まりました。

当時の私にとって、日々の生活のなかに新しい体験がたくさんありました。辞書には載っていない口語体の意味にとまどったこと、お店で幼子が母親を呼ぶ"Mommy"いう声に何度もふり返ってしまったこと(私の名前もマミ)、親戚の結婚式で男性の正装がジーパンで驚いたことなど、どれもアメリカに来てこそ知り得たことで、日常の些細なひとコマに、新しいことを知る楽しさ・出会う喜びを大いに感じました。

英語圏のほかの国も知りたいという思いから、オーストラリア交流に参加し、タムワースに滞在。夏季の北米交流とは異なり、冬季のオーストラリアではホストといっしょに高校へ通い、授業

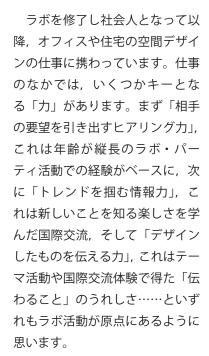
を受けるという体験は「知る楽しさ」をさらに感じる場となりました。高校卒業が近づいている学年で,放課後は職業訓練校でさらに学び,訪日費用のためのアルバイトにも励むホストや同級生の姿には頭が下がる思いでした。

また、14歳の頃と比べ、伝えたいことをことばで表現できるようになっていたようです。ホストファミリーから "Your English is getting better." と、たびたびいってもらえたことが、実感するきっかけとなり、伝わることのうれしさを学びました。

国際交流参加への機会に恵まれたこと、あたたかく迎えいれてくれ、思いやりにあふれたすてきなホストファミリー、また活動に携わっている方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

ももさわ まみ=オフィス家具販売 会社勤務

(新潟県・百沢ちかいパーティ OG)



とくにラボ国際交流は、19年間のラボ活動のなかでもっとも印象的なプログラムでした。14歳になる夏に北米交流、17歳になる夏にオーストラリア交流に参加しました。滞在中に現地で誕生日を迎えたこともあり、人生のなかでもほんとうに貴重な経験をすることができました。







リモートワークスタイルの内装コーディネート